令和６年度　福井県立科学技術高等学校　学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習指導 研修	生徒の活動を主体とした年間学習指導計画を作成する。	90%以上の教員が、生徒の活動を主体とした年間学習指導計画を作成し、計画通りに進められたと回答している。また、授業の進度は「（ちょうど、おおむね）良かった」と答えた生徒が例年より4%ダウンしたが90%を保っている。しかし、「速く感じた」、「遅く感じた」と答えた生徒が合計10%いるので、その層の生徒への対応が今後の課題である。	年々多様化する生徒への対応が難しくなってきている。その結果、授業の進度が「（ちょうど、おおむね）良かった」生徒のパーセンテージが減少傾向にあると考えられる。教材として、図や動画を多用していくことも、一つの方法であると考えられる。また、小テストやタブレットなどを利用して、生徒の理解度を確認しながら授業を進めていくことも大切である。
	小テストの実施、ICT教材の活用、レポート・課題などを通して生徒の知識の定着を図り、学習到達度の自己理解を深めさせる。	レポート・課題の提出は、91%の生徒ができている。また、授業内容については、85%の生徒が、「（よく、おおむね）理解できた」と答えており、知識の定着が図られている。一方で、生徒の多様化への対応が求められてきている。今後、そのような生徒がますます増えていく可能性があるので、対策を検討していく必要がある。	授業の進度に関しては、良好な結果が得られたが、授業内容の理解に関しては、十分ではない生徒が14%程度いる。ネット上に公開されている教材動画やICTなどを有効に活用し、理解を深めることも一つの方法である。また、小テストなどを積極的に活用して、定着を図ることも大切である。
2 生徒指導	毎朝遅刻指導を行い、基本的生活習慣を身につけさせる。	遅刻回数が学期に３回以下の生徒は93%であり、ほとんどの生徒が規則正しい生活を送っている。しかし、意識が低い生徒も若干おり、遅刻や基本的な生活習慣が送れていない生徒は決まった生徒の場合が多い。	毎朝の生徒玄関前での指導等の効果が上がっている。遅刻の多い生徒に対して保護者と連携を密にし、生徒に対しては褒めることや声掛けなどを徹底して意識づけの工夫などを継続して指導する。
	頭髪服装の指導を通して、校則遵守の必要性を理解させる。	生徒は98%の高い数値で、目標をクリアできている。保護者の意識も97%と高く、校則遵守にご協力いただいている。来年度も引続き、生徒、保護者と共通理解を図りながら指導を行っていきたい。	規範意識がやや低い生徒に対しては日頃から声をかけ、生徒が自分を律する態度が身につくように粘り強く指導する。また保護者にも校内規範について周知徹底を図り、高い数値を維持したい。
	部活動の充実を図る。	部活動の加入率は全体で75%であり、昨年に比べると3%下がった。しかし、部活動参加者のほとんどの生徒は積極的に参加しており、高い割合で頑張っていることが伺える。	部活動の活性化をいっそう図るため、全校集会などで部活動を継続させる働きかけを行い、加入率の維持と向上を図る。
3 進路指導	進路一斉模試、進路一斉指導等を実施し、基礎学力の向上と進路意識の高揚を図る。	進路に対する意識を高める項目では、生徒は88%、保護者は86%、教職員は89%の高い割合で、いずれも目標を達成できた。	進路一斉指導では、１年生から県内企業の現状や社会情勢を伝えたり、企業見学や進路ガイダンスを積極的に行ったりして、意識を向上させたい。採用試験において学科試験では国語と数学の試験方法やSPI試験等を採用する企業が多いことから基礎学力の大切さを指導していく。
	進学や就職のガイダンス、面接、作文指導等を実施し、選考試験に合格できる実力を身につけさせる。	96%の保護者に「子供の進路指導に（おおむね）満足している」という評価をいただき十分な成果を得ている。進路に関する態度や身なり・言葉遣い等の項目では、生徒は94%と高い数値で目標を達成できている。	生徒の希望する進路先に進めるよう次年度も面接練習を充実させる。生徒が進学や就職のガイダンスを通して自己理解を深め、自身の能力や適性を理解し自信をもって試験に臨めるように指導する。
4 保健管理	健康診断と事後処理を計画的に実施し、必要に応じて早期治療を働きかける。	感染症対策について、保護者の「注意を払うことができた」が89%,教職員の「協力することができた」が92%と目標は達しているが、昨年より若干低下している。新型コロナウイルス感染症が第５類となって１年以上たち感染対策への意識が徐々に薄れてきていると思われる。今後も感染症の拡大は予断を許さない状況である。このことを踏まえて、基本的な感染症対策は定着させながらも、状況に応じて注意喚起等の情報発信などの対策を臨機応変に行う必要がある。	生徒に自分の健康課題を意識させ、日常の健康管理に主体的に取り組めるようにするために、今後も保護者にも協力を得て、これまで通り継続対応としたい。感染予防についても、校内での環境を整え、日常的に心がけて自発的に行動するような取り組みを行っていきたい。感染症に対する評価は、このまま高レベルを維持できるか継続経過観察しながらも、学校として対策の指針を見直し、具体的な取り組みにつなげていきたい。
	悩みや困ったことを相談できる環境を充実させる。	月１回実施している学校生活アンケートで「悩み事を書き込むことができた」と答えた生徒は96%であった。相談することを、重いことと捉えている生徒もいるので、気軽に相談できる呼びかけや環境づくりを継続していく必要がある。今年から生徒が相談する相手を選べるようにしたので、理解していない生徒には、折に触れて発信していく必要を感じた。教職員の生徒への悩みの傾聴の姿勢は100%であり、悩み事への相談・連携・取り組みは高いレベルで行われている。	生徒が気軽に安心して相談できる環境づくりに継続して取り組んでいきたい。特別支援教育研修会やQ-U検査検討会などの研修会を通して教職員の生徒情報共有を継続してすすめたい。また、問題解決のための情報共有や連携が円滑に働くように進めていきたい。
	学習環境に関心を持ち、環境の美化・整備を進める。	生徒の清掃活動に対する評価は3年連続99%としっかり行われている様子である。95%の保護者も学習環境について満足している。また、それを見守り指導する教員の意識も高い。学校全体のメンテナンスのワックスがけは外部業者だけでなく、各学科の先生方にも協力していただいた。生徒も年2回の外清掃の時に、階段や特別教室のワックスがけを行い、より良い学習環境の整備に取り組んだ効果かと思われる。	校舎内外での清掃活動や清潔で安全な学習環境を形成する体制ができている。今後も継続して生徒が自ら学習環境に関心を持ち整えられるように働きかけたい。
5 保護者との 連携	保護者と学校との連携事業（プランター花壇作り、学校祭バザー販売、強歩大会給水サービスなど）を実施する。	学校祭や強歩大会等の連携企画は、保護者「保護者と学校の連携事業は(おおむね)ふさわしい企画だと思う(95%)」との高評価を維持できた。教職員も92%と目標を達成できている。また、生徒の「保護者が活動していることを(大変)良いことだと思う(96%)」との評価は、文化祭ステージ企画にPTAによる抽選会を盛り込んだり、バザーの商品をPRを行ったりしたことが印象に残った結果と思われる。	R7年度は高P連北信越大会の事務局を担うため、一部の保護者に負担が集中することなく且つ本校PTAの活動も維持できるよう進めていく。学校祭は今年度同様、役員・学級委員以外への呼びかけを継続する。
	広報活動の一環として、PTA広報誌「水仙」の充実を図る。	例年以上に著作物保護の基準の順守に務めながら紙面を作った。広報誌の発行により、学校で行っている行事を保護者は「(おおむね)理解できた(93%)」、教職員「(おおむね)適切であった(97%)」と高い水準で目標を達成できていることと考えられる。	R7年度は高P連北信越大会が本県で実施される。学校行事のみならず本校PTAの北信越福井大会への関わりも紙面を通して保護者・教職員にお知らせしていきたい。また、同時にPTA広報委員会に今以上の負担がかからない運営にも努めていきたい。
6 図書 視聴覚	広報活動や朝読書を通して、読書に親しみを持たせ、読書に興味を持たせる。	保護者「子どもが読書の必要性を感じるようになった(87%)」と例年同様で安定しているが、教職員「図書室の本・雑誌・新聞を通して知識・情報を取り入れることを（おおむね）すすめた(74%)」は目標値80%を下回っている。今後、教職員・生徒に対して図書館利用の重要性をもっと周知していくべきである。	スマホ、ゲーム等のデジタル機器による若者の読書離れが著しい。新刊案内や図書だよりといった広報活動に努める他、授業での図書や図書室の利用を促すなど、生徒の読書への興味・関心を高める手立てを考えたい。
	ICT環境の整備と効果的活用を図る。	タブレットとWindows系のソフトとの連携も促進された昨年度と比べて、「授業や実習等でICT機器や視聴覚機器を(おおむね)積極的に活用した」教職員は昨年度94%から82%と減少した。その原因として、教室内のWi-Fi環境の不具合により機器を活用しづらい状況が続いたことが挙げられる。	今後もICT機器や視聴覚機器の活用を推進し、生徒の理解を高める授業づくりの一助としたい。そのために投影用モニターなど使用環境の整備や情報提供に努める。
7 ものづくり 教育	検定や資格試験に積極的に取り組む。	生徒の87%は、資格取得に積極的に取り組めたと回答している。教師も同じく95%が、積極的に指導することができたと感じている。保護者の評価も96%が資格指導に対して肯定的な評価をしている。 課題としては、今後も、この状況を維持していくことである。	クラス全員で受験する資格試験で全員合格を目指すことで、自分なりの資格試験の勉強のやり方を身につけ、個人で受験する際に役立てる。また、合格率を上げることで更に多くの資格を取る意欲を高める。 更に、難関試験への挑戦を勧める。
	学科での実習で、基本的知識・技術を身につけさせ、課題研究では、校内での発表会において、成果を披露させる。	教員については、84%が肯定的に捉えており、目標を達成している。生徒は92%、保護者は96%が肯定的に捉えていて、とても高い評価になっている。教員が今後も、生徒指導の成果を高めていくことが大切だと考える。	教員は、いろいろな場面に対応していかなければならないので、日々の生徒への対応で指導力をつけていくことが大切だと思われる。
	地域・企業との連携や行事、各種コンテスト、コンクール、競技会等に積極的に参加させる。	教員の評価は89%、保護者の評価は97%で高い評価をしている。生徒は、昨年度78%に対して、今年度71%と少し割合が減っている。実際に参加する生徒の数を増やしていく必要がある。	コンテストやコンクールは参加する生徒の人数が限られてくるが、地域や企業との連携や地域の行事への参加については、生徒の数を増やしていくことができる。2年生の産業技術探究や3年生の課題研究で積極的に取り組んでいきたい。